

内科学〈消化器内科分野〉

担当指導医師

●本院

教授：松本 主之

特任教授：黒田 英克

准教授：宮坂 昭生、柿坂 啓介、梁井 俊一

講師：鳥谷 洋右

特任講師：吉田 雄一、遠藤 啓、永塚 真、大泉 智史

助教：富田 一光、阿部 珠美、漆久保 順、佐々木 登希夫、平井 みなみ

渡辺 拓也

助教(任期付)：鈴木 彰子、本多 俊介、佐々木 裕、大友 康司

学修方針（実習概要等）：

1. 消化器疾患の診療と治療について、4・5学年の臨床実習をふまえ消化器内科または関連病院で実際の医療に参加しながら習得できるよう指導する。各種検査においては、厚労省が呈示した臨床実習小委員会の最終報告案（許容される基本的医療行為の水準Ⅰ～Ⅲ）のうち、当科に関連するものには積極的に参加してもらう。
2. 実際の臨床実習を行う上では、医療に直接参加しているという認識を持ち、チーム医療の重要性を認識する。また、より良い患者－医師関係を得るために、身なり、挨拶や言葉づかい、患者のプライバシーへの配慮を含めた接し方を体得する。

教育成果（アウトカム）：

患者と良好な人間関係を築くとともに、消化管・肝胆膵疾患の診療における基本的な知識と診察手技・態度を修得し、適切な診察・診断および治療法を学ぶことで、内科学領域全体の診療に必要な知識の基盤を形成できる。

（ディプロマポリシー：1,2,3,4,5,6）

到達目標（SBOs）：

1. 患者の病態や心理、社会的背景を理解しながら、適切な態度で診断に必要な病歴（主訴、現病歴、合併症、既往歴、家族歴など）を聴取し、患者に関する医療情報を指導医に簡潔に説明、もしくは診療録に記載できる。
2. 病歴に基づいて、診断に必要な基本的診察手技により診察を実施、もしくは指導医の診察の介助を行い、診療録に記載できる。
3. 消化管・肝胆膵疾患の主要な病態を理解し、聴取した病歴・身体所見に基づいて鑑別診断を上げ、適確な検査計画を立案し、これを患者に説明できる。
4. 臨床検査、生理検査（食道内圧測定検査、ICG排泄試験など）、画像検査（単純X線検査、超音波、CT、MRI、内視鏡検査、シンチグラフィ）などの所見を正しく読み取ることによって診断の正確性を上げるとともに、的確な重症度（予後）評価・成因診断を行い、治療計画および再発予防を立案できる。
5. 文献検索や医療情報検索により、科学的根拠に基づいた診療計画を立案し、スチューデントドクターとして内容を患者および医療スタッフに説明できる。

6. 消化管・肝胆膵疾患の主要な疾患について、1-5の診療に必要な基礎的知識を整理し説明することができる。
7. スチューデントドクターとしての役割を自覚し、医行為基準に示された処置・治療の実施もしくは介助を行うことができる。
8. 医療スタッフの一員であることを自覚し、患者や医療スタッフと良好なコミュニケーションをとることができる。

実習内容：

1. 担当教官（担当チーム）・指導医とともに日常の医療行為に積極的に参加してもらう。外来では、指導教官の新患日に参加し、病歴聴取、診察法ならびに診断手順などについて学ぶ。病棟では担当教官（担当チーム）とともに患者を受け持ち、また、担当グループミーティングに参加して、病歴聴取、診察、各種検査を通じて医師として必要な医学知識と技術の習得に努める。
2. 医局会、入退院カンファランス、内視鏡読影会、教授回診に参加する。
3. 関連病院においては、指導医のもと臨床実習を行い、行事に参加する。
4. 病歴聴取と身体診察に基づく診断法
患者より病歴を聴取し、診療録記載の訓練を行う。身体診察（視診、触診、打診、聴診）による診断法ならびに記載方法などについて習得する。
5. 一般的検査法の理解と実際
尿検査、糞便検査、血液生化学検査（末梢血液、肝機能、腎機能、内分泌検査など）、画像検査（単純X線、腹部超音波、CT、血管造影、腹腔鏡、消化管X線造影ならびに内視鏡）についての意義を学び、その判読などについて習得する。なお、腹部超音波検査、血管造影検査、肝生検、消化管X線造影検査（上部、下部消化管）ならびに内視鏡検査については、検査を見学し、一部の検査においては担当教官の指導・監督のもとに介助を行う。
6. 基本的治療手技の理解と実際
医療行為を行う上で基本となる下記の事項について学び、一部の手技については担当教官の指導・監督のもと実際に行う。
 - 1) 医療面接
 - 2) カルテ記載・書類記載（カルテ記載、医療文書記載）
 - 3) 処方仕方（単位、常用量、副作用、内服薬・外用薬処方箋、注射処方箋、食事箋、麻薬処方など）
 - 4) 全身状態とバイタルサイン
 - 5) 腹部の診察
 - 6) 画像検査（内視鏡、単純X線、腹部超音波、血管造影、消化管X線造影、CT、MRI）
 - 7) 注射法（筋注法、静注法の手技、副作用）
 - 8) 血管穿刺と採血（末梢静脈穿刺・採血、末梢静脈の血管確保）
 - 9) 処置および手技（皮膚消毒、導尿と浣腸）
 - 10) 輸血の理論と実際（血液型判定、交差試験、成分輸血、副作用）
 - 11) 輸液の理論と実際（輸液製剤の種類、末梢静脈および中心静脈栄養、経腸栄養法、電解質補正など）
 - 12) 穿刺法（胸腔、腹腔）
 - 13) 無菌法（各種消毒法）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
診療用機械	超音波断層装置	4	肝・胆・膵疾患の検査および超音波下生検・穿刺
診療用機械	消化管内視鏡	8台	静脈瘤の診断および治療
視聴覚用機械	プロジェクター (Projector XJ-A245V)	1	学生講義用
その他	複合機 MP C5503 SP	1	講義・実習資料作成